

- (2) 主 催 国立淡路青年の家  
兵庫県教育委員会

昭和50年6月1日より  
昭和51年2月29日まで

(3) 期日・会場・参加者

- ① 期 日 昭和50年8月14日～9月17日  
② 会 場 国立淡路青年の家  
③ 参加者 男子3名、女子2名、計5名

② 条 件

ア 委託に要する経費として、1学級当たり県費5万円を交付する。

イ 研究の成果について県教育委員会に報告書を提出する。

(4) 研修内容

- ① 講演 「現代社会をどう生きるか」  
② 議義 「青年学級における学習内容をめぐる諸問題」  
③ 討議 「学習プログラムの立案と展開はどうあるべきか」  
④ 郷土芸能観賞・野外活動・キャンドルの集い

③ 方 法

各教育事務所長より推薦された学級のうち、適当と認めたものに委託する。

## 8 福島県青年教育研究協議会の設置

## 7 県研究青年学級の委託

(1) 趣 旨

近年の急激な社会構造の変化は、青少年の都市集中化、進学率の上昇・就業構造の変化・価値観の多様化等をもたらしており、勤労青年のための公教育機関として重要な役割を担っている青年学級にも多くの問題を投げかけている。それらの諸問題に対処するためには、地域の実情と青年の実態をふまえ、現代に即した新しい青年教育計画の確立が強く望まれているところである。

そのために、青年学級の開設・運営等について継続的・実践的な研究を県が委託し、その成果について資料の報告をもとめ、本県青年学級の充実・振興に資する。

(1) 趣 旨

青少年をとりまく生活環境はめまぐるしく変化しておりそれに対処する社会教育のあり方についても、多くの課題をなげかけている。特に青少年の指導にあたる指導者の資質向上とその養成確保は急を要する課題である。

本県における青少年教育指導者の実態をふまえ、指導者として要求される専門的知識や技能・指導方法について研究するとともに、民間指導者の養成とその組織化のための方策を示し、本県青少年教育の指導体制の確立を図る。

(2) 研究委託青年学級名

教育事務所	教育委員会名	青年学級名
県 中	郡山市教育委員会	郡山市田村青年教室
南 会 津	田島町教育委員会	田島町中央青年教室
相 双	鹿島町教育委員会	鹿島町青年学級

(2) 委 員

委員名	所属職名	住 所
1 佐藤 勝巳	福島大学助教授	福島市東浜町16-26
2 丹野 清栄	福島県文化センター総務部長	〃 森合字西養山3
3 須田くにお	福島グリーンクラブ指揮者	〃 渡利大久保30
4 国馬 善郎	郡山女子大学講師	郡山市咲田2丁目7-17
5 渡部 宏	会津若松市立図書館長	会津若松市南町1-50
6 三河 正	福島市体育館長	福島市天神町15-23
7 正木ミチル	県立福島西女子高等学校教諭	〃 霞町10-34
8 市川 清純	元福島県社会教育委員	二本松市袋内163
9 懸田 弘訓	県立安達高等学校教諭	〃 表1-484
10 橋本 英子	県立福島女子高等学校教諭	福島市腰浜町11-17
11 折笠 常弘	県教育庁文化課主任社会教育主事兼芸術文化係長	〃 上浜町3-43
12 佐久間貞良	県教育庁保健体育課指導主事	伊達郡伊達町伏黒字一本石107
13 丹治 成男	県教育庁県北教育事務所社会教育主事	福島市北沢又字稲荷前3-5
14 水戸 金正	県教育庁社会教育課主幹	〃 野田町上太田13-7
15 佐藤保太郎	県教育庁社会教育課主任社会教育主事	〃 渡利扇田町57
16 金田 浩一	県教育庁社会教育課社会教育主事	郡山市亀田2丁目19の18
17 七島 征	県教育庁社会教育課社会教育主事	福島市宮下町12-20

(3) 研究課題

次にかかげる研究課題の中から1題を選択し実際的な研究資料が得られるよう研究を進める。

研究主題 「地域の実情と青年の実態に即した青年学級の開設と運営」

研究課題Ⅰ

- ① 青年の要求課題や地域における諸課題をいかにしてとらえ、それを教育課題として学習計画の中に反映させたか。

- ② 学級の開設手順と広報について

研究課題Ⅱ

- ① 学習を効果的に進めるために、学習指導の方法と学習指導組織をどのようにしたか。

- ② 学習指導試案の立案・展開とその評価について。

研究課題Ⅲ

- ① 都市（農村）における企業（関連機関）等との連携による学級の開設と運営について。

- ② 学習形態と学習内容の編成・展開並びにその評価について。

(4) 委託の期間・条件・方法

- ① 委託の期間